

## 点検・評価シート（2）

# 健康都市やまとMANAB I 計画

## （大和市生涯学習推進計画）

（教育委員会所管分）

### ◆ 評価の基準について ◆

#### ○施策目標の「総合評価」

A評価	施策目標の実現に向けて、期待を上回る結果が表れている。
B評価	施策目標の実現に向けて、期待された結果が表れている。
C評価	施策目標の実現に向けて、期待された結果が表れていない。



#### ○個別目標の「達成度」

A評価	個別目標の進捗状況が、令和2年度に期待された結果を上回っている。
B評価	個別目標の進捗状況が、令和2年度に期待された通りの結果になっている。
C評価	個別目標の進捗状況が、令和2年度に期待された結果を下回っている。

## 施策目標1 誰もがいつでも気軽に学習できる場を提供します

市民の学びを推進するにあたっては、多世代にわたって誰もが自らの意思で学び始めるきっかけづくりが重要です。

そのために、誰でも気軽に学習できる場を提供することで、学習への興味や意欲を湧き立たせ、より多くの人々に自己の充実、生活の質的向上をもたらすことができます。

### 個別目標1—(1) 市民一人ひとりにとっての「居場所」の提供

- ・人口減少社会の到来、人生100年とも言われる長寿社会の到来という新たな時代の中で、生涯学習においても、社会状況の変化に対応していく必要があります。
- ・特に、退職後、地域とのつながりが少ない方や同居家族のいない方などの「おひとり様」を対象に、学習機会や「居場所」の提供などを進め、これらの人たちが充実した毎日を過ごせるよう支援していく必要があります。
- ・そこでは、人と人との新たな出会いや交流、学びへの興味や意欲の向上が期待されます。

#### 【めざす姿】

市民の学びに関わる機会が増えている。

#### 【施策の内容】

- ① 「健康都市大学」を開講します。
  - ・「大和市民大学」を大幅にリニューアルし、市や関係団体等が実施する学習機会を、共通の仕組みで一つにつなぐ「健康都市大学」を開講します。
  - ・そこでは、市民が講師となり市民に教授する講座等を充実させるなど、学びを通じた、市民の居場所づくり、交流の場づくりを目指します。
- ② 市の施設を活用し、市民の「居場所」を提供します。
  - ・「文化創造拠点シリウス」を中心に、「市民交流拠点ポラリス」、各地区学習センターなどを市民の「居場所」としても活用し、学習に触れる機会を提供します。
- ③ 誰でも気軽に利用できる学習スペースを提供します。
  - ・主に、学習センターの一部の会議室等を、誰でも自由に学習できるスペースとして開放し、市民が気軽に利用できる学習の場を提供します。
  - ・「シリウス」や「ポラリス」に設置している市民交流スペースをはじめとした、誰もが自由に利用できるスペースを提供します。
- ④ 気軽に立ち寄ることのできる図書館で学習機会を提供します。
  - ・いつでも、だれでも、だれとでも利用できる図書館を「市民の居場所」として提供するとともに、一人ひとりの知的好奇心に応じた学習の場を提供します。

## 個別目標1－(1)を達成するための主な取組

### 1 健康都市大学の開講（市長部局所管 担当:図書・学び交流課）

- 【関連する施策の内容】①健康都市大学を開講します。  
②市の施設を活用し、市民の「居場所」を提供します。

- 大和市が目指す将来都市像「健康都市 やまと」にふさわしい市民の学びの場として、「健康都市大学」を開講しています。
- 健康都市大学は、市民自身が持つスキルや知識、経験を基に、市民が講師を務める「市民でつくる健康学部」、市や外郭団体などが市民向けに実施している講座から成る「人の健康学部」と「まちと社会の健康学部」の3つの学部で構成しています。
- 健康都市大学の特徴的な学部である「市民でつくる健康学部」では、いつでも誰でも気軽に参加できる市民講師の講座に加え、シニア世代等の地域デビューのきっかけづくりを目指した新たな試みとして、市の課長級職員や市民団体による施策や活動紹介などの講座をスタートさせました。
- こうした工夫を凝らした取り組みにより、「市民でつくる健康学部」は、新型コロナウイルス感染症拡大による2度の休講にもかかわらず、延べ2,419人の受講者数となり市民の学びの意欲にこたえとともに、新たな居場所としての役割を果たすことができました。
- 活動指標と成果指標の数値を用いて1回あたりの受講者を比較すると、2019年度は30.9人であったのに対し、2020年度は25.2人となっており、コロナ禍において講座の定員制限を行う中で2割程度の減となったことは、健康都市大学の講座に対する市民の満足度の高さによるものと判断しています。
- また、「人の健康学部」や「まちと社会の健康学部」を構成する市や外郭団体等が実施する講座などをまとめた「健康都市大学ガイドブック」を発行し、学びの情報一元化と、分かりやすい情報提供に努めました。



「市民でつくる健康学部」

### 活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 ※1 (2017)	実績					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○健康都市大学 ※2の開講数	回	—	309	96				363

※1 計画策定時（2017年）は、健康都市大学は事業創設前のため実績なし。

※2 健康都市大学は、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴い2020年2月22日(土)～8月31日(月)及び2021年1月10日(日)～3月21日(日)まで休講。

### 成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○健康都市大学の 受講者数	人	—	9,535	2,419				2,600

### 今後の課題

- 「市民でつくる健康学部」では、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、参加人数に制限を設けたり受講生の発言を控えていただいたりするなど、従前の開催方法を見直しました。今後も感染予防の厳重な対策が必要となります。
- より多くの市民が学び、学習意欲が継続されるよう、引き続き魅力的な講座を実施していくことが求められます。
- 受講ポイントを活用し、学位制を導入するなど、継続的に学ぶ楽しみの提供を検討する必要があります。

## 2 学習センターにおける学習の場、居場所の提供（市長部局所管 担当：図書・学び交流課）

【関連する施策の内容】②市の施設を活用し、市民の「居場所」を提供します。

③誰でも気軽に利用できる学習スペースを提供します。

- ・文化創造拠点シリウス内生涯学習センターを中心に、市民交流拠点ポラリスや各地区学習センターなど、市内の施設を人と人との新たな出会いや交流、学びへの興味や意欲の向上のために市民の「居場所」として提供しています。
- ・令和2年4月から6月末まで新型コロナウイルス感染症対策のため臨時休館し、居場所の提供ができていない期間もありましたが、再開後は定員制限によるソーシャルディスタンスの確保や、開館時間の短縮等の感染対策に取り組みながら学習の場、居場所の提供を行いました。
- ・文化創造拠点シリウス2階のラウンジでは、個人の勉強や、コロナ禍においてはリモートワークの場などとして提供したほか、シリウス・ポラリスでは予約せずに誰もが利用できる市民交流スペース、各学習センターでは当日の団体利用の無い空き会議室を有効に活用した学習室開放を行い、学びの場を提供しました。

### 活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 ※1 (2017)	実績					最終目標値 (2023)
			※2 2019	※3 2020	2021	2022	2023	
○学習センターの 開館日数	日	生涯 363	332	272				364
		ポラリスー	328	277				360
		つきみ野 308	326	267				358
		桜丘 131	326	267				358
		渋谷 346	317	258				347

※1 計画策定時（2017年）はポラリスは開館前のため実績なし。地区館は直営のため月曜休館。また、桜丘学習センターは改修工事のため2017年9月～2018年3月まで休館。

※2 2019年度は、2019年10月12日(土)大型台風19号に伴う全館休館が1日、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う臨時休館期間2020年3月1日(日)～31日(火)があった。

※3 2020年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う臨時休館期間2020年4月1日(水)～6月30日(火)（渋谷図書館は5月31日(日)まで）があった。

### 成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○市民一人当たりの学習センター来館回数	回	4.74	8.64	2.28				6.42

## 今後の課題

- ・市内の感染状況や、他市の動向を調査しながら開館・閉館等の時期の検討を行っている為、直前に周知することとなっており、既に各サークルでは他の施設を予約したり、活動休止を決定していることなどを理由に、施設の利用率が下がっています。
- ・このことから、新型コロナウイルス感染症に伴う臨時休館については、各サークルの活動が継続的・計画的な活動となるよう、休館や再開を周知するタイミングが課題です。
- ・市民交流スペースでは、一人ひとりの「居場所」作りとしては機能していますが、コロナ禍においては人と人との距離をとることや、接触をできるだけ回避することが求められていることから、場所の提供による「市民交流」や「地域とのつながり」を促すことが難しい状況です。
- ・以前は、ボランティアグループの利用や、健康都市大学の講座受講後に受講生同士で団らんしている様子なども見られたため、感染症が落ち着いたあと、団体やサークル活動の更なる発展や、新たな学びへつなげるための仕掛けづくりを検討していく必要があります。



文化創造拠点シリウス6階  
市民交流スペース

### 3 図書館における学習の場、居場所の提供（市長部局所管 担当:図書・学び交流課）

【関連する施策の内容】②市の施設を活用し、市民の「居場所」を提供します。

④気軽に立ち寄ることのできる図書館で学習機会を提供します。

- ・市内に文化創造拠点シリウスを中心に3つの図書館を設置し、それぞれの地域の特性に合わせた特色ある図書館を運営しています。
- ・中でも大和市立図書館は、文化創造拠点シリウスの「全館まるごと図書館」というコンセプトのもと、館内には神奈川県下で最も多い987席の座席を配置し、館内どこでも図書館の本を読むことができる居心地のよい空間づくりに努めました。
- ・その結果、令和2年度は、新型コロナウイルスによる影響もより、休館せざるを得ない期間もありましたが、年間135万人の来館者があり、まさに市民の「居場所」として親しまれています。
- ・市北部の中央林間図書館は年間47万人、南部の渋谷図書館は年間10万人と、3館合わせて年192万人の来館者があり、市が進める「図書館 城下町」施策の各地域における拠点として多くの市民に利用されました。

## 活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 ※1 (2017)	実績				最終目標値 (2023)
			※2 2019	※3 2020	2021	2022	
○図書館の開館 日数	日	本館 363	332	272			363
		中央林間一	332	272			363
		渋谷 346	317	287			346

※1 計画策定時（2017年）は中央林間図書館は開館前のため実績なし。

※2 2019年度は、2019年10月12日(土)大型台風19号に伴う全館休館が1日、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う臨時休館期間2020年3月1日(日)～31日(火)があった。

※3 2020年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う臨時休館期間2020年4月1日(水)～6月30日(火)（渋谷図書館は5月31日(日)まで）があった。

## 成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○図書館の来館者数	人	3,053,751	4,002,361	1,922,640				4,177,000

## 今後の課題

- ・新型コロナウイルスの感染状況に応じた、適切なサービスが提供できるよう指定管理者と都度協議していく必要があります。
- ・平成28年11月の大和市立図書館の移転開館、平成30年4月の中央林間図書館の開館及び渋谷学習センター図書室の図書館法にもとづく図書館としての位置づけに伴い、平成31年4月から市内の図書館は全館が民間の指定管理者による管理運営体制に移行しました。
- ・令和3年度からは、全館一括での指定管理者による運営体制が整ったことから、それぞれの図書館が地域に根差した特徴ある図書館としての機能を十分発揮するだけでなく、各図書館が連携し、横断的な図書館サービスを展開するための管理運営のあり方を検討する必要があります。



中央林間図書館

個別目標1—(1) 市民一人ひとりにとっての「居場所」の提供

[達成度] B

## 個別目標1—(2) 生涯各期に合わせた学習機会の提供

- ・人口減少社会の到来をはじめ、グローバル化や情報化の進展など、今日の社会状況は目まぐるしく変化しています。
- ・このような社会を生き抜き、充実した生涯を送ることができるよう、一人ひとりの生涯各期に合わせた学習機会の提供が必要です。

### 【めざす姿】

乳幼児から高齢者まで全ての世代にわたって、意欲的に楽しく学習する市民が増えている。

### 【施策の内容】

- ① 乳幼児期に対応する学習機会を提供します。
  - ・乳幼児の健全な心身と生活の基礎を養うとともに、保護者の子育てに関する悩みや不安などが軽減されるような学習機会を提供し、家庭教育支援を推進します。
  - ・保護者同士の交流の場や学習の場を設けて、乳幼児と保護者がともに学び、成長できるような機会を提供します。
  - ・様々な読書活動を通じて乳幼児と保護者がさらにふれあいの時間を持つきっかけとなるような機会を提供します。
- ② 青少年期に対応する学習機会を提供します。
  - ・「社会を生き抜く力」を養うために、生涯にわたって学び続ける意欲や、自らが考え、判断し、行動できる資質や能力を身につける学習機会を提供します。
  - ・青少年が、社会体験や自然体験など様々な体験により、自主性や協調性を養うことができる学習機会を提供します。
- ③ 成人期に対応する学習機会を提供します。
  - ・家庭、地域、職場での生活を豊かにするため、趣味や教養、就労などに関する学習機会を提供します。
  - ・高齢期に向けて、新たな生きがいの発見や地域とのつながりを促す機会、また健康づくりのための学習機会を提供します。
- ④ 高齢期に対応する学習機会を提供します。
  - ・高齢化に伴う新たなライフスタイルに対応した、趣味や教養、健康に関する学習機会を提供します。
  - ・学び直しや新たな学びに挑戦する意欲や生きがいを持つとともに、自己の知識や経験等を次世代の育成や地域での社会貢献に活かせるような学習機会を提供します。

## 個別目標1－(2)を達成するための主な取組

### 1 乳幼児期対応講座等の開催（市長部局所管 担当：図書・学び交流課）

【関連する施策の内容】①乳幼児期に対応する学習機会を提供します。

- ・乳幼児期における問題をテーマとして、市民ニーズに応じた学習機会を市や地域、学習団体と連携して提供し、事業実施後にはアンケートを用いて事業の成果の把握に努めました。
- ・令和2年4月から6月末まで新型コロナウイルス感染症対策のため臨時休館し、講座を開催することができませんでしたが、各館でオンライン講座の企画・検討を行いました。外出できなくてもオンライン講座をきっかけとして、情報交換や他者との学び合い、認め合いから交流が生まれ、受講者同士の繋がりにより、孤独感や孤立感の解消に寄与しました。
- ・幼児家庭教育学級や子育てネットワーク作りのための保育室開放事業などは、感染症対策として人数を制限しながら実施しました。
- ・「乳幼児家庭教育学級 パパとママに知ってほしい～発達のおはなし～赤ちゃんの生まれてから歩くまでの旅」では、「赤ちゃんの行動に合わせた、成長に沿った接し方がよくわかりました」、「成長を飛ばしてしまっても、あとで遊びの中で穴埋めできる。という言葉に勇気づけられました」など、初めての子育てにおける不安感を解消する話や、抱っこひもやスリングの使い方など、誰に聞けばよいかわからずなんとなくやっていたことを実践的に学ぶ良い機会となりました。他にも、「目からウロコの話が沢山あり、学んだ事を今日から実践したい」との意見もあり、継続的な学習につながる意欲的な感想も確認できました。
- ・図書館では、本市における第3次子ども読書活動推進計画として位置づけられる「こども読書わくわくプラン」に基づき、乳幼児期からYA（ヤングアダルト）世代と言われる中高生期における、子どもの読書活動推進のための様々な取り組みを進めました。
- ・そのなかで乳幼児期の読書活動を推進するための各種おはなし会を14回実施しました。
- ・また、市の母子保健を担当する部署と連携し、すべての子どもに人生最初の本との出会いを作るための取り組み、ブックスタート事業を実施し、令和2年度においては1,765組の親子に絵本を届けました。



～発達のおはなし～  
赤ちゃんの生まれてから歩くまでの旅



クリスマスとくべつおはなし会

### 活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○乳幼児期に対応する講座等の開催事業数	事業	46	35	23				40
○おはなし会の開催回数	回	282	270	130				282

## 成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○乳幼児期に対応する講座等の延べ参加者数	人	6,927	10,818	1,934				7,646
○図書館や保育園などのおはなし会の延べ参加者数	人	3,103	5,330	1,739				3,420

## 今後の課題

- ・乳幼児期の講座等開催事業数は最終目標値を下回り、参加者数も同様に少なくなりました。これは、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴い学習センターを令和2年4月から6月末まで休館し、講座を中止したことなどが影響しました。
- ・費用対効果を考えると、講座1回あたりの参加者が多い方が望ましいですが、対面で実施することによる感染リスクを減少させるには、参加者相互の距離を保つため、定員を絞る必要があります、講座を開催できたとしても、1回あたりの参加者数が少なくなってしまうことが課題です。
- ・オンライン講座の実施についてはノウハウが無い中で、つきみ野学習センターで試行的に乳幼児期の講座から実施を重ね、各館の担当者が見学してノウハウを共有するなどし、各学習センターでのオンライン講座による取り組みが広がりつつありますが、受講者はネットワーク環境が整った人のみ受講が可能であるため、パソコンやタブレットなどを所有していない方への配慮方法を検討する必要があります。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大により、自宅で過ごす時間が増えており、これを機に、さらなる本との出会いを提供し、本の面白さや、読書の大切さを普及啓発していく取り組みが必要です。

## 2 青少年期対応講座等の開催（市長部局所管 担当：図書・学び交流課、こども・青少年課）

【関連する施策の内容】②青少年期に対応する学習機会を提供します。

- ・青少年期におけるさまざまな問題をテーマとして、市民ニーズに応じた学習機会を提供しました。また、事業実施後にはアンケートを用いて事業の成果の把握に努めました。
- ・令和2年4月から6月末まで新型コロナウイルス感染症対策のため臨時休館し、講座を開催することができませんでしたが、各館でオンライン講座の企画・検討を行いました。年度途中からは外出できなくてもオンライン講座をきっかけとして、情報交換や他者との学び合い、認め合いから交流が生まれ、受講者同士の繋がりにより、孤独感や孤立感の解消に寄与しました。
- ・青少年期の子どもを持つ保護者のための児童家庭教育学級（セミナー）のほか、青少年期の児童・生徒を対象に、プロの漫画家を講師に迎え、「子ども漫画講座～漫画家に学ぶ！作画体験～」の講座などを実施しました。講座では、プロの漫画家が実際に使っている道具を使ってオリジナルキャラクターを作ったり、様々な作画の手法を学びました。
- ・アンケートでは、「当初の開催日が新型コロナウイルス感染症対策のため延期となっていてがっかりしていたが、開催の連絡があり、とても楽しみにしていた」、「自分は絵が上手じゃないけどとても楽しくできました。」など、初心者から漫画を普段から描いている子まで、すべての参加者にとって、満足度の高い講座となりました。



子ども漫画講座  
～漫画家に学ぶ！作画体験～

- また、「農業ってどんなお仕事？～いちごのおいしい食べ方～」の講座では、小学生とその保護者を対象に、いつも食べている野菜や果物はどのようにして食卓に並ぶのか、本当に美味しい果物とは何かなど、いちごを通して農業の仕事を学ぶ講座を実施しました。「いちごが赤いのはなぜか」という疑問を持って参加した児童や、講座に参加するまでいちごが苦手だったという子どももおり、受講後には「いちごの仕組みや工夫など、色々なことを知る事ができ、好きになるかもしれないなと思った」、「いちごについて農家さんのご苦労やここだけの話など、ギュッと凝縮された楽しい時間でした。食事の楽しみ方が新たに見つかったように思います」など、学習活動をとおしていちごの魅力を再発見するとともに、親子でおいしいいちごの食べ方や選び方について話し合ったり、今後のいちご栽培の実践に向けた意欲などがみられたりするなど、多くの参加者から好評を得た講座となりました。
- 図書館では、小学生と保護者を対象とした図書館見学を実施し、図書館をより身近に感じてもらえるような取り組みを行いました。  
また、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため学校休業等の影響で、自宅で過ごす時間が増えた子どもたちの読書環境を充実させるため、文化創造拠点シリウス内の市立図書館の蔵書を全市立小・中学校図書館に各50冊ずつ配架し、児童・生徒の読書活動を支援したり、市内の高校3年生までの子ども達に図書カードを配付したりしました
- ユースクラブについては、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、予定していた活動を縮小または中止しましたが、できる範囲で子どもが企画から運営まで体験できる機会を提供することで、中学生、高校生、青年と、発達段階に合わせて自主性や主体性を育み、さらには仲間作りを通して協調性や社会性を身に着けさせる取り組みを行いました。
- こども体験事業については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止するため事業を中止しました。

## 活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○青少年期に対応する講座等の開催事業数	事業	28	21	10				28
●ユースクラブが知識や技術を習得するための会議や研修の実施日数	日	26	22	11				27
●こども体験事業の活動報告パネルの展示日数	日	151	288	0				151

## 成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○青少年期に対応する講座等の延べ参加者数	人	1,330	1,070	342				1,466
●ユースクラブの活動日数	日	90	79	22				92
●こども体験事業参加者数	人	29	25	0				30

担当: ○図書・学び交流課、●こども・青少年課

## 今後の課題

- ・ 青少年期の講座等開催事業数は最終目標値を下回り、参加者数も同様に少なくなりました。これは、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴い学習センターを令和2年4月から6月末まで休館し、講座を中止したことなどによるものです。
- ・ 費用対効果を考えると、講座1回あたりの参加者が多い方が望ましいですが、対面で実施することによる感染リスクを減少させるには、参加者相互の距離を保つため、定員を絞る必要があります。講座を開催できたとしても、1回あたりの参加者数が少なくなってしまうことが課題です。
- ・ オンライン講座の受講者はネットワーク環境が整った人のみ受講が可能であるため、パソコンやタブレットなどを所有していない方への配慮方法を検討する必要があります。

### 3 成人期対応講座等の開催（市長部局所管 担当：図書・学び交流課）

【関連する施策の内容】③成人期に対応する学習機会を提供します。

- ・ 家庭・地域・職場で活用できる、自己啓発・能力開発等の講座を実施しました。
- ・ 生涯学習センターで開催した「辞書編集者が語る 日本語あれこれ」では3回にわたり、辞書編集者をも悩ませる、変化し続ける日本語をどう考えるべきか、文献に残された具体例をもとに講義が行われました。

本講座では、辞書編集者だけが知っている、語源や方言などに関する日本語の面白さや、ことばへの興味が増す辞書との付き合い方の紹介などもあり、受講者からは「時代とともに変化していく言葉の魅力を感じました。」、

「言葉は、意味が固定されることなく、有機的なものであることが実感でき、大変面白かった」、「言葉の使い方は、“正しい”か、“誤り”かが明確なものだと思っていたが、時代とともに変わるものであり、一概に誤用と

決めつけてはいけないことを知ることができた」など、本来の意味や成り立ちを理解しつつ、言葉の変化について、学ぶことのできる講座となりました。また、講義の中では「ワードウォッチング」というキーワードが用いられ、受講後には多くの受講者から「ワードウォッチングが楽しそう」、「今後、ワードウォッチングしたいと思います」などの、今後の学びの意欲につながる感想が見受けられました。



辞書編集者が語る  
日本語あれこれ

## 活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○成人期に対応する講座等の開催事業数	事業	16	12	6				15

## 成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○成人期に対応する講座等の延べ参加者数	人	613	594	245				674

## 今後の課題

- ・成人期の講座等開催事業数は最終目標値を下回り、参加者数も同様に少なくなりました。これは、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴い学習センターを令和2年4月から6月末まで休館し、講座を中止したことなどによるものです。
- ・費用対効果を考えると、講座1回あたりの参加者が多い方が望ましいですが、対面で実施することによる感染リスクを減少させるには、参加者相互の距離を保つため、定員を絞る必要があります。講座を開催できたとしても、1回あたりの参加者数が少なくなってしまうことが課題です。
- ・オンライン講座の受講者はネットワーク環境が整った人のみ受講が可能であるため、パソコンやタブレットなどを所有していない方への配慮方法を検討する必要があります。

## 4 高齢期対応講座等の開催（市長部局所管 担当:図書・学び交流課）

【関連する施策の内容】④高齢期に対応する学習機会を提供します。

- ・高齢期においても元気に、生きがいづくりや健康づくりに取り組むための講座を実施しました。
- ・生涯学習センターで開催された「シニアいきいきセミナー 一緒に笑って！動いて健康!!「健康寿命」の秘訣」は、全4回の連続講座で開催し、「仲間と一緒に取り組む活動の大切さ」や、「継続の秘訣を学ぶこと」を講座のねらいとして実施しました。参加者からは「シニア向けの運動を楽しみにしていました」、「一人ではなかなか運動を続けられないけれど、皆さんと一緒に学んで前向きに取り組めました」などの意見がありました。講座終了後のアンケートでは、「以前より健康意識が高まった」との回答が9割以上の参加者から確認されました。
- ・新型コロナウイルス感染症により、人との接触を避けるためのオンラインサービスが増える中、インターネットが使いこなせないことによるデジタルデバイドの解消を目的に、「今話題!!オンライン会話を始めてみよう!」と題し、初心者向けの講座を実施しました。オンライン飲み会、オンライン講座など、コロナ禍において話題となっている”オンライン会話”について、感染症対策を取った上で、対面方式で行いました。参加者からは「日本語ボランティアサークルでリモート授業を検討しているため参加したが、大変参考になった」など、学習知識を地域に活かす意見を確認することができました。

## 活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○高齢期に対応する講座等の開催事業数	事業	10	11	10				11

## 成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○高齢期に対応する講座等の延べ参加者数	人	693	1,069	479				762

## 今後の課題

- ・高齢期の講座等開催事業数は最終目標値を若干下回り、参加者数も同様に少なくなりました。これは、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴い学習センターを令和2年4月から6月末まで休館し、講座を中止したことや、感染対策ために受講者間の距離を取るため、定員を絞ったことなどが影響しました。
- ・費用対効果を考えると、講座1回あたりの参加者が多い方が望ましいですが、対面で実施することによる感染リスクを減少させるには、参加者相互の距離を保つため、定員を絞る必要があります、講座を開催できたとしても、1回あたりの参加者数が少なくなってしまうことが課題です。
- ・高齢期を対象としたオンライン講座の実施については、引き続きデジタルディバイドの解消が必要です。
- ・オンライン講座はネットワーク環境が整った人のみ受講が可能であるため、パソコンやタブレットなどを所有していない方への配慮方法を検討する必要があります。

個別目標1—(2) 生涯各期に合わせた学習機会の提供

[達成度] B

### 個別目標1—(3) 市民のニーズや現代的課題に合わせた学習機会の提供

- ・多様化する市民の学習ニーズに応えることが求められています。
- ・急変する社会状況や生活環境に対応した学習機会の提供も必要です。

#### 【めざす姿】

自らの興味や社会状況に合った学習をすることにより、  
心や生活が充実した市民が増えている。

#### 【施策の内容】

- ① 市民ニーズに応える学習機会を提供します。
  - ・市民の学習ニーズを的確に把握し、それに対応した学習機会を提供します。
  - ・受講者アンケートなどにより、変化する学習ニーズの把握に努めます。
  - ・指定管理者のもつ民間ノウハウを活用し、充実した学習機会を提供します。
- ② 社会状況に対応した「現代的課題」に関する学習機会を提供します。
  - ・地球環境の保全、国際理解、男女共同参画社会の実現、情報化社会への対応など、市民が社会生活を営む上で理解し、身につけておくことが望まれる課題についての学習機会を提供します。

## 個別目標1—(3)を達成するための主な取組

### 1 受講者アンケートの実施（市長部局所管 担当：図書・学び交流課）

【関連する施策の内容】①市民ニーズに応える学習機会を提供します。

- ・学習センターで実施した各講座においては、オンライン講座を含め、講座終了後にアンケートを実施し、企画意図に合わせた評価指標を設け、実施効果を測りました。
- ・成果指標であるアンケートによる参加者の満足度に表されるとおり、満足度は非常に高い結果となっており、市民ニーズに応える学習機会を提供することができました。

### 活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○アンケート調査の実施回数	回	204	160	110				150

### 成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○アンケートによる参加者の満足度	%	94	98	98				94

## 今後の課題

- アンケート調査の実施回数は最終目標値を若干下回りましたが、これは、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴い学習センターを令和2年4月から6月末まで休館し、講座を中止したことにより年間講座実施回数が少なくなったことによるものです。
- アンケートによる参加者の満足度は、昨年同様に最終目標値を上回りました。引き続き現在の満足度を維持できるよう、講座に関するアンケート調査のほか、どのような分野の学びに興味を持っているか等受講者への声掛けによる聞き取るなど、生の声を把握することで、多様な市民ニーズの把握に努める必要があります。

## 2 現代的課題対応講座等の開催（市長部局所管 担当：図書・学び交流課）

【関連する施策の内容】②社会状況に対応した「現代的課題」に関する学習機会を提供します。

- 多文化共生や防災、環境など、様々な現代的課題をテーマとした学習機会の提供に努めました。
- 今年度は、市内5館各学習センターの連携講座として、「(SDGs) 未来のために私ができること」をテーマに17の分野の課題に基づく講座を企画し、2館で現代的課題として講座を実施しました。ポラリスでは、「自然の思いを感じるアウトドア」の講座が行われ、自然を身近に感じることでできる座学による講義と、隣接した「緑野青空子ども広場」を会場に、参加者同士で自然体験のグループワークを行いました。参加者からは、「人間にとっての原点に戻る意味でのアウトドアの大切さを学べた」や「年を取って昔の伊豆の生活を思い出した」などの意見があり、失われていく森や命を守るため、私たちに出来る事を学ぶことができました。

### 活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○現代的課題に対応する講座等の開催事業数	事業	39	29	18				38

### 成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○現代的課題に対応する講座等の延べ参加者数	人	1,615	1,992	646				1,780

## 今後の課題

- 現代的課題に対応する講座等の開催事業数は最終目標値を下回り、参加者数も同様に少なくなりました。これは、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴い学習センターを令和2年4月から6月末まで休館し、講座を中止したことなどが影響しました。
- 5館連携講座では、SDGsの17分野と紐づけて実施しましたが、17分野には、「1 貧困」や「2 飢餓」、「5 ジェンダー平等を実現」など、普段、現代的課題として取り上げている分野が多くある中で、今年度2館で実施した講座は共に「環境」でした。現代的課題とSDGsの17分野との紐づけは、学習センターで行われる現代的課題の講座に馴染みのない方でも講座に興味を持っていただくきっかけにもなるため、各館の講座企画時にテーマの重複等を企画調整したうえで、より多くのテーマに取り組むことが今後の課題です。

個別目標1—(3) 市民のニーズや現代的課題に合わせた学習機会の提供

[達成度] B

## 個別目標1—(4) スポーツや健康に関する学習機会の提供

- ・生涯を通じて健康で豊かな生活を送れるよう、日常的にスポーツに親しむことができる環境や機会を提供することが必要です。
- ・また、市民の健康に対する意識の高まりに応じた健康に関する学習機会の提供も求められます。

### 【めざす姿】

日常的にスポーツに親しみ、健康的に暮らす市民が増えている。

### 【施策の内容】

- ① スポーツに親しむことができる学習機会を提供します。
  - ・市民の自発的なスポーツ活動を奨励する教室やイベントなど、スポーツに関する様々な学習機会を提供します。
  - ・スポーツの大会や試合などの観戦の機会を提供し、市民のスポーツへの興味、関心を高め、健康への意識啓発を図ります。
  - ・スポーツを通じた健康づくり、地域の絆づくり等を推進させ、老若男女を問わず市民の誰もが生涯にわたって豊かな活動を送れるようにします。
- ② 健康維持・増進につながる学習機会を提供します。
  - ・健やかに楽しく生きるための知識を深め、健康づくりにつながるような健康維持、増進に関する学習機会を提供します。
  - ・食事や運動だけでなく、市民ニーズに応じた健康に関する様々なテーマによる学習機会を提供します。

## 個別目標1—(4)を達成するための主な取組

### 1 スポーツ教室等の開催（市長部局所管 担当:スポーツ課）

【関連する施策の内容】①スポーツに親しむことができる学習機会を提供します。

- ・スポーツ教室については、令和元年度に引き続き東京2020オリンピック・パラリンピックやラグビーワールドカップ等に関連する注目度の高い教室を実施しました。また、運動機会が得にくい子育て世代の参加を促進するため託児室を用意したほか、令和元年度は新たに教室メニューを2種目増やすなど、より多くの市民がスポーツに触れる機会を創出しました。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止により中止となったスポーツ教室や、天候の影響を受けた教室があったため、計画時より実績が減少しましたが、今後も安全に配慮しながら、魅力のある教室を展開します。
- ・市民のスポーツ観戦機会の提供については、トップスポーツ観戦デーとして「第53回日本女子ソフトボールリーグ後期開幕節」を大和スタジアムに誘致しました。コロナ禍においても感染対策を行いながら、東京オリンピックで活躍が期待される選手たちを間近に見る機会を創出しました。試合では、サヨナラスリーランホームランが生まれたり、思いがけない得点差の試合があるなど、手に汗握る展開を楽しめたほか、トップアスリートならではの迫力のあるプレーを数多く堪能することができました。



トップスポーツ観戦デー

来場者からは「このような大会が観られてよかった」、「上野選手が想像より大きかった」、「また、日本リーグを開催してほしい」など、好意的な意見を多数いただき、「見る」スポーツを存分に楽しめる機会を提供することで、スポーツへの関心を高めることができました。

## 活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
◇スポーツ教室 開催延べ教室数	教室	14	16	6				14
◇スポーツ観戦 機会の提供数	回	12	21	7				12

## 成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
◇スポーツ教室 延べ参加者数	人	1,062	722	331				1,196
◇年1回以上直 接会場でスポー ツを観戦してい る人の割合 ※1	%	34.3	—	—				37.3

※1 年1回以上直接会場でスポーツを観戦している人の割合については、大和市スポーツ推進計画において実績を把握する年度(2021年度実施予定)が決められていることから2019～2020年度の実績はありません。

## 今後の課題

- ・東京2020オリンピック・パラリンピックをはじめ、注目度の高い国際大会等を契機とするスポーツへの機運の高まりを逃すことなく、スポーツ教室やトップスポーツ観戦デーのメニューに反映させ、市民に広くスポーツの体験・観戦機会を創出していくことが求められます。
- また実施にあたっては、ガイドラインに沿った新型コロナウイルス感染症の感染対策を講じる等、安全・安心にスポーツを楽しめる配慮が必要です。

## 2 健康維持・増進に関する講座等の開催（市長部局所管 担当:図書・学び交流課）

【関連する施策の内容】②健康維持・増進につながる学習機会を提供します。

- ・健康維持・増進に関する学習機会を提供し、健やかに楽しく生きるための知識を深め、健康づくりにつながる学習機会を提供しました。
- ・各学習センターでは、講座で学んだ運動を日常生活の中に取り入れ、継続的に行えるような講座を通年で実施しました。つきみ野学習センターで開催された「ゆるやかヨガのひととき」などは、休館期間を経た9月以降に、新型コロナウイルス感染症対策として参加人数を制限し、室内で距離を保つなどの感染対策を行った上で、健康のための運動習慣を身に付けるきっかけとして講座を開催しました。
- ・健康維持・増進に関する講座は、運動不足になりがちなコロナ禍における地域住民のニーズと合致し、一人でできる運動や、自宅で無理なくできるストレッチなど、「自分の健康は自分で守る」ためのコツを感じながら繰り返し実技を行いました。
- ・講座終了後のアンケートでは「引き続き自宅で続けたい」、「毎日少しずつ運動しようと思うようになった」などの日常の運動習慣につながる回答が多くありました。

### 活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○健康に関する講座等の開催事業数	事業	7	6	5				10

### 成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○健康に関する講座等の延べ参加者数	人	125	267	304				135

### 今後の課題

- ・地区館の多目的室やポラリスのアリーナなど、各学習センターには室内運動のできる施設がありますが、コロナ禍におけるスポーツイベントの開催については、換気の問題や距離を取って接触を無くすなど、感染対策上クリアすべき課題が多くあります。スポーツに関する講座を開催することは、新たなスポーツを知るきっかけや、健康の保持・増進のための欠かせないものです。外出を控え、運動不足にならないような取り組みとして、一人で運動が続かない人への支援や、一人でもできる運動やストレッチなどを支援する取組について、生涯各期の講座と同様に、オンライン講座の企画・検討が必要です。

個別目標1—(4) スポーツや健康に関する学習機会の提供

[達成度] A

## 個別目標1—(5) 芸術・文化・歴史に関する学習機会の提供

- ・心豊かで潤いある生活を送るには、文化や芸術に親しむことができる機会の提供が大切です。
- ・地域の歴史や伝統、文化を知ることは、郷土意識の醸成にも寄与します。

### 【めざす姿】

芸術や文化に関する学習機会や、歴史や伝統が受け継がれていくための学習活動が展開され、文化芸術に親しむ市民が増えている。

### 【施策の内容】

- ① 芸術や文化に親しむ学習機会を提供します。
  - ・音楽や演劇の発表会、芸術鑑賞の機会、芸術文化に関する講座など、市民が芸術や文化に親しむ学習機会を提供します。
  - ・芸術活動や文化活動を行う学習団体との情報共有及び連携を進め、学習団体の活性化、文化芸術活動の推進を図ります。
- ② 歴史や伝統が受け継がれていくための学習機会を提供します。
  - ・市民が伝統文化を知る機会の充実を図り、歴史や文化が後世に継承されていくための学習機会を提供します。
  - ・郷土資料や文化財を収集して保護し、調査研究を進めるとともに、展示や刊行物の発行といった形での学習機会も提供します。

## 個別目標1—(5)を達成するための主な取組

### 1 芸術文化に関する講座等の開催（市長部局所管 担当：図書・学び交流課）

【関連する施策の内容】①芸術や文化に親しむ学習機会を提供します。

- ・各学習センターでは、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止とする公演などもありましたが、舞台にビニールシートを下げ、客席との距離を広くとることや、舞台上の演者間にアクリルパーテーションを設置するなどの新型コロナウイルス感染症対策に努めながら、音楽や演劇の発表会、ミニコンサートなど、芸術・文化に関する活動の充実を図るための講座や公演を実施しました。

### 活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○芸術・文化に関する講座等の開催事業数	事業	3	3	7				8

## 成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○芸術・文化に関する講座等の延べ参加者数	人	263	250	254				288

## 今後の課題

- ・ギャラリーを有する学習センターは市内に3館あり、絵画や書道などの創作活動を支援する取り組みとして、芸術・文化に関する講座との連動や、団体やサークルとの情報共有を行うとともに、ギャラリー利用の推進をとおして、文化芸術活動を活発にしていく必要があります。

## 2 歴史企画展等の開催（市長部局所管 担当:文化振興課）

【関連する施策の内容】②歴史や伝統が受け継がれていくための学習機会を提供します。

- ・つる舞の里歴史資料館、下鶴間ふるさと館、郷土民家園の歴史文化3施設は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため6月末まで休館し、再開後も感染症対策として講座事業の多くが中止となりましたが、郷土資料や文化財の収集・保存・調査研究については継続的に実施しました。成果は企画展示・講座・刊行物の発行という形で還元し、市民に学習機会を提供しました。つる舞の里歴史資料館では『大和市の歴史』の刊行と連携した企画展「再発見 大和市の歴史」と関連講座を開催しました。また、企画コーナー展示としてかつての疫病「疱瘡」と関係がある「サバ神社と疱瘡除け」を開催しました。つる舞の里歴史資料館・下鶴間ふるさと館両館では、年中行事の展示を市民サークルの協力を得て実施しており、市民の活動成果の発表の場ともなっています。また、市域の古建築をテーマに専門の研究者を講師に招いた文化財愛護講座「神社建築の歴史」を開催予定でしたが、感染症予防の観点から中止しました。



つる舞の里歴史資料館企画展

## 活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020 ※1	2021	2022	2023	
◎つる舞の里歴史資料館企画展の開催回数	回	3	3	4				3
◎歴史文化施設の開催事業数	事業	65	65	26				65

※1 2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため2020年4月1日(水)～6月30日(火)まで臨時休館。

## 成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020 ※1	2021	2022	2023	
◎つる舞の里歴史資料館で開催する企画展(3館合同含む)の来館者数	人	1,740	1,804	2,150				2,400
◎歴史文化施設の利用者数	人	54,443	47,760	37,516				61,200

※1 2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため2020年4月1日(水)～6月30日(火)まで臨時休館。

## 今後の課題

- ・歴史文化施設について、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により開催事業数、利用者数ともに大きく減少しました。今後は、感染症予防に配慮した新たな事業の実施に努め、利用者数の回復に努める必要があります。

個別目標1—(5) 芸術・文化・歴史に関する学習機会の提供

[達成度] A

## 【施策目標1に対する評価】

- ・新型コロナウイルス感染症の予防対策を徹底し、不特定多数の来館者が利用する施設においては、『安心して学習できる場』としての環境整備に取り組み、また、従来の対面による講座に加え、オンラインによる講座を開催するなど、実施方法等を見直しながら、学習機会を提供してきました。
- ・令和2年度は、活動・成果指標の大部分が計画策定時を大幅に下回る結果となりましたが、講座に対する受講者の満足度は非常に高い数値となっており、期待していた成果は概ね得られたと判断しています。
- ・令和2年度の市内3図書館の年間来館者数は192万人を越え、図書資料等の貸出冊数も全図書施設合計で105万冊を数えており、新型コロナウイルスの影響下においても、図書館は多くの人へ学習の場を提供できたと感じています。
- ・日本で開催される国際的なスポーツイベントを契機とした機運の高まりを逃すことなく、関心の高い種目を選択することで、多くの方にスポーツの楽しさを提供することができました。

施策目標1 誰もがいつでも気軽に学習できる場を提供します

【総合評価】 B

## 【施策目標1の目標達成に向けた施策の展開方針】

### 【健康都市大学】

- ・「市民でつくる健康学部」では、学びを通じた市民の新たな居場所づくりに努めてきましたが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、従前の開催方法の見直しを図りました。講座の実施にあたっては、感染予防の厳重な対策が必要と考え、今後は、市民の学びが継続されるような魅力的な講座の開催はもとより、安心して学習できる場の提供に努めていきます。

### 【図書館】

- ・平成31年4月から市内の図書館・図書室は全て民間の指定管理者による管理運営体制に移行しました。民間事業者の能力を十分に活用すると共に、各図書館を連携させた一体的な管理運営のあり方を検討していきます。

### 【学習センター】

- ・対面形式での講座が実施できないことへの対策として、ネット環境を利用したZoom等のオンライン会議ツールを活用した講座を増やすことで、リアルタイムで参加者同士の意見交換ができます。事業検討の際には、オンラインツールのメリット、デメリットを把握したうえで、一方的な情報提供や情報発信にはYouTube、交流を重視する講座はZoom、その他は対面式の講座などの使い分けと共に、パソコンやタブレットを所有していない層に向けた取組みの検討など、統一した運用ルール検討や検証を行っていきます。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため休館した期間もあり、数値目標のほとんどは未達ですが、芸術・文化に関する講座は逆に、コロナ禍において実施方法を見直すなど工夫した取組みにより、数値を伸ばすことができました。これらのことから、生涯各期の講座企画においても、講座実施の方法をオンライン、動画配信、対面など、対面実施できない場合の代替案を並行企画する必要があります。

### 【スポーツ】

- ・スポーツを「みる」ことを「する」ことへの動機づけとし、健康の保持増進へとつなぐ取組みを継続します。

### 【文化振興】

- ・歴史文化施設では、郷土資料や文化財の収集・保存・調査研究を実施して得られた成果を、企画展示・講座の実施、刊行物の発行等の様々な媒体で発信し、市民に歴史学習の機会を提供しています。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により開催事業数、利用者数ともに大きく減少しているため、今後は、感染症予防に配慮した新たな企画の立案、情報発信方法の工夫、多彩な事業の実施による施設の魅力向上等に取り組み、市民の学習機会の充実に努めていきます。

## 施策目標2 学習を通じて人と人とのつながり、交流の輪を広げます

仲間や友人などと共に学ぶことによって、人と人とのつながりや交流が生まれます。学習活動や学習成果の発表を通じた“学びによるつながり”は、地域における交流や連帯感を深め、地域のコミュニティづくりにつながることを期待されます。

### 個別目標2—(1) 情報提供や学習相談による支援

- ・学習に関する情報提供は、これから学習活動を始めようとする人たちにとっては大きな助けとなります。
- ・誰もが気兼ねなく、学習活動に取り組むことができる支援も必要です。

#### 【めざす姿】

学習に関する情報や相談体制が充実し、市民の学習活動が活発になる。

#### 【施策の内容】

- ① 学習に関する情報を効果的に提供します。
  - ・必要としている人に必要とされる情報が届き、学習活動へとつながるよう、体系的かつ効果的な情報伝達をしていきます。
  - ・講座の内容や募集方法、施設の場所や利用方法、催事、人材及び団体情報など、学習に関する様々な情報を、各種情報媒体を活用し提供していきます。
  - ・関係施設に関する情報や、民間情報についても積極的に提供するなど、情報収集及び整理を行い、提供する機能を充実させます。
  - ・図書館において、幅広い分野の資料を収集するとともに、レファレンスサービスを充実することで、市民の読書活動や学習活動を支援します。
- ② 学習相談による充実した支援を行います。
  - ・学習希望者の様々なニーズに対応できるよう、適切かつ的確な学習相談による支援を行います。
  - ・学習団体に対し、学習発表等の企画立案やPR方法などの助言及び支援を行い、市民交流の促進を図ります。

## 個別目標2ー(1)を達成するための主な取組

### 1 レファレンスサービスの提供（市長部局所管 担当：図書・学び交流課）

【関連する施策の内容】①学習に関する情報を効果的に提供します。

- ・図書館におけるレファレンスサービスの提供は、市民の自主的な学習活動を支援する図書館の基幹サービスのひとつであり、利用者の満足度向上にも直結します。新型コロナウイルスの感染拡大に伴う、休館の影響から、前年度より件数は少なくなりましたが、361件の利用がありました。また、リクエストについては280、184件受け付け、市民の学びたいという気持ちに応えました。

#### 活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○図書館の蔵書数	冊	586,553	617,823	626,380				686,000
○レファレンスサービスの広報回数	回	4	2	2				8

#### 成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○市民一人あたりの図書の貸出冊数	冊	5.39	5.83	4.42				5.85
○レファレンス受付件数	件	295	456	361				302

#### 今後の課題

- ・図書館におけるレファレンスサービスの利用数は図書館機能を計る重要な指標のひとつであり、適切な感染症対策を施したうえで、今後も利用者数の増加に努める必要があります。

## 2 学習情報の提供・学習相談の実施（市長部局所管 担当:図書・学び交流課）

【関連する施策の内容】②学習相談による充実した支援を行います。

- ・学習情報をコンパクトにまとめた「生涯学習支援ガイド」や「広報やまと」、市のホームページなどを活用し、継続的に学習情報を提供するとともに、窓口・電話での学習相談を行い、学習を希望する市民へ個人・団体それぞれの求める支援につなぐことに努めました。
- ・コロナ禍における各学習センターの利用方法等について、HPのほか、電話や窓口において、学習団体へ細かく説明を行い、継続的な活動に向けた支援を行いました。

### 活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○学習相談員数	人	※1 32	36	34				33

※1 計画策定時（2017年）の学習相談員の数は、生涯学習センター（指定管理者）の職員と地区館（市職員）を合算。

### 成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○学習に関する相談件数	件	3,382	4,454	6,236				3,962

### 今後の課題

- ・学習団体に対する支援においては、まなびの輪支援事業を単なる体験会や講習会とするだけでなく、団体の活動に賛同する人を集める機会とし、また、事業開催のチラシ・ポスターの作成では、指定管理者のノウハウを団体へ還元できるよう、支援方法を確立することが課題です。
- ・生涯学習の推進及び充実を図るためには、いつでも学習に関する情報を入手でき、気軽に相談できる環境が必要となります。
- ・近年インターネットの普及により個人で多くの情報を得ることも容易になりつつありますが、スマートフォンやタブレット端末など、情報機器の操作に不慣れた利用者も多いため、会議室の予約方法のアナウンスや講座の申込み方法だけでなく、紙（チラシ等）で日ごろ生涯学習に関する情報を取得している層に対する広報手段についても、引き続き効果的な手段を検討する必要があります。

個別目標2—(1) 情報提供や学習相談による支援

[達成度] A

## 個別目標2—(2) 人材や団体の育成と活用に関する支援

- ・個人や団体が学習により得た知識や経験を、地域や他の学習希望者と共有することは、社会に有益であるとともに、本人にとっても大変意義のあることです。
- ・生涯学習を推進していく上では、学習者の支援とともに、学習支援者となる人材や団体を育成し活用することが重要です。

### 【めざす姿】

学びを支える担い手づくりが進められ、市民同士で教え、学び合うシステムの構築が進んでいる。

### 【施策の内容】

- ① 学習者や学習支援者、学習団体への支援の充実を図ります。
  - ・市民の学習活動が円滑に行われるよう学習者や学習支援者、学習団体を支援するとともに、学習成果を市民の生涯学習推進に活用します。
  - ・学習者の高齢化などにより、活動の継続が困難となっている団体に対し、継続して団体活動が行えるよう相談や支援を進めます。
  - ・子どもの読書活動に関わるボランティアの育成を図ります。

## 個別目標2—(2)を達成するための主な取組

### 1 団体利用の登録説明会の開催（市長部局所管 担当:図書・学び交流課）

【関連する施策の内容】①学習者や学習支援者、学習団体への支援の充実を図ります。

- ・「団体利用の登録説明会」はこれまで各学習センターで実施されてきた「利用者懇談会」のような既存の利用団体に対する利用者説明会ではなく、これまで学習センターを利用したことの無い市民や団体を対象に、施設見学と利用登録に関する説明会を開催するものですが、館の休館などの影響もあり、今年度は実施できませんでした。
- ・学習団体の登録数は、新型コロナウイルス感染症拡大による学習センターの休館、再開後の人数制限や時間短縮の影響で大幅に減少する結果となりました。

### 活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○団体利用の登録説明会の開催回数	回	-	1	0				5

### 成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○学習団体の登録数	団体	1,761	1,991	1,638				1,849

## 今後の課題

- ・学習者の高齢化などにより、活動の継続が困難となっている団体は引き続き増加しています。継続して活動が行えるよう相談の機会や支援方法を見直し、新規会員獲得のため、市民交流スペースなどの多くの利用者が集まる場所を活用し、新規学習団体の立ち上げを促すための仕掛けを検討する必要があります。
- ・学習団体間の交流の活発化を図るとともに、引き続き市民活動団体など他団体との交流を行い、地域や社会への広がりある活動の支援を検討する必要があります。

## 2 読み聞かせボランティア養成講座の開催（市長部局所管 担当：図書・学び交流課）

- ・「こども読書わくわくプラン」に基づき、様々な取り組みを進めるうえで、読み聞かせボランティアの存在は大変重要な要素であることから、ボランティアにかかわる人材の育成や、その活動場所を確保する取り組みを進めました。
- ・図書館では、令和2年度にボランティアを養成する各種講座を開催し、それぞれの経験や技術に応じた内容とするなど、初心者から経験者まで幅広く参加できる体制を整えたことから、令和2年度は年間124人の参加がありました。
- ・また、ボランティアの活躍の場の確保のため、大和市立図書館内でボランティアによるおはなし会を年24回実施しました。



読み聞かせボランティア  
養成講座（入門編）

### 活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○「読み聞かせボランティア養成講座」の開催回数	回	11	9	8				11

### 成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○「読み聞かせボランティア養成講座」等の延べ参加者数	人	127	175	124				300

## 今後の課題

- ・子どもの読書活動にかかわるボランティアは、それぞれ地域のボランティア団体やグループに所属するなどし、個々に活動することが多いことから、ボランティア団体間の相互の交流機会を図書館が中心になって提供することで、ボランティア同士の情報交換を促進し、スキルアップを図ることができる機会を創出することが必要です。

個別目標2—(2) 人材や団体の育成と活用に関する支援

[達成度] B

## 個別目標2—(3) 学習による市民相互の交流への支援

- ・学習による自己の充足だけでなく、学習活動を通じて人と人とのつながり、市民間の交流を促し、地域コミュニティの形成につなげていく必要があります。

### 【めざす姿】

学習活動や学習成果の発表を通して、地域コミュニティが生まれている。

### 【施策の内容】

- ① 市民相互交流が生まれる学習活動や学習成果の発表を支援します。
  - ・日頃の学習活動、学習成果を発表できる場を設けるとともに、参加者への支援や内外への周知を積極的に行い、学習による市民相互交流や地域コミュニティの形成を促します。
- ② 市民の交流機会を創出する学習団体を支援します。
  - ・学習活動や学習成果の発表などにより、市民交流の創出を推進する学習団体を支援します。

## 個別目標2—(3)を達成するための主な取組

### 1 学習センターまつりの開催(市長部局所管 担当:図書・学び交流課)

【関連する施策の内容】①市民相互交流が生まれる学習活動や学習成果の発表を支援します。

- ・令和2年度は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、5館のうち2館(渋谷・生学)は学習センターまつりが中止となりました。
- ・実施できた学習センターにおいても例年より参加団体、参加者数ともに少なく、感染対策に配慮しながら、利用者同士の交流を継続するための取組みとして行われました。
- ・つきみ野学習センターでは、毎年11月に行われていた学習センターまつりを中止しましたが、代替事業として年度末に「つきみ野博覧会」と題し、利用団体による団体活動展示会を7日間、ギャラリーで行いました。
- ・コロナ禍における展示会ということもあり、広く周知は行えませんでした。木彫りや革絵など、作品を写真に収めて掲示するなど会場に人が常駐しない工夫をし、普段の活動風景や活動を来場者にPRしていました。また、スポーツ団体や音楽の団体は、それぞれの活動する映像を撮影し、DVDで流すコーナーを設けるなど、それぞれ日ごろの成果を発表する良い機会となりました。



つきみ野博覧会

## 活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○学習センターまつりの回数	回	5	5	3				5

## 成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○学習センターまつり参加団体数	団体	170	159	80				180

## 今後の課題

- ・各学習センター活動団体による学習活動や学習成果の発表の場として「学習センターまつり」は、継続的に実施され、各団体意欲的に取り組まれています。同じ学習センター内での交流に留まっています。市民交流、団体間交流を生み出すための仕組み作りが今後の課題です。
- ・学習センターまつりは、学習団体で構成される実行委員会が運営しており、新型コロナウイルス感染症の影響により、まつりの中止が続いてしまう場合は、実行委員会メンバーのモチベーションを保つための方策を検討していく必要があります。

## 2 交流機会創出の取組み(市長部局所管 担当:図書・学び交流課)

【関連する施策の内容】②市民相互交流が生まれる学習活動や学習成果の発表を支援します。

- ・市民の交流機会を創出するために、学習団体による講座の広報について支援を行いました。
- ・学習団体による講座の実施については、会場となる学習センターが臨時休館していたことなどが影響し、開催する団体も少なかったため、講座参加者数、活動支援件数ともに少なくなりました。
- ・また、指定管理者の広報誌「まなびの風」では特集号を臨時発行し、「おうち時間みんな何してる？」と題して、学習センター登録団体の方が、学習センター休館中もそれぞれに工夫した過ごし方をされていることをお知らせしました。
- ・多くの利用者のあたたかい声により、紙面上での市民相互交流や地域コミュニティの形成に努めました。



まなびの風 特集号

## 活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○学習団体による講座等の広報回数	回	-	948	223				800
○まなびの輪支援事業説明会の実施回数	回	5	3	4				5

## 成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○学習団体による講座等参加者数	人	3,218	2,898	728				3,550
○学習団体の活動支援件数	件	99	62	27				104

## 今後の課題

- ・学習者の高齢化などにより、活動の継続が困難となっている団体は引き続き増加しています。継続して活動が行えるよう、相談の機会や支援方法を見直し、市民交流スペースなどの多くの利用者が集まる場所を活用して、新規会員の獲得や新規学習団体の立ち上げを促すための仕掛けを検討する必要があります。

個別目標2—(3) 学習による市民相互の交流への支援

[達成度] C

## 【施策目標2に対する評価】

- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため学習センターを休館していた期間においても、団体の継続的な活動支援のため、ホームページ上で学習センターの開館・休館情報や、講座の中止案内を掲載するだけでなく、指定管理者の広報誌「まなびの風」特集号を臨時発行するなどし、学習センターで活動している方々が休館中も様々な工夫をして過ごしている様子を紹介するなど、休館中も人と人との交流の輪を広げる活動を行いました。
- ・コロナ禍における個別目標の達成度は、休館に伴う講座の中止などの影響が大きく、多くの項目で数値目標は未達となりましたが、その中でも実施できた事業は、施策目標が目指す、地域における交流や連帯感を醸成することができたと捉えています。

施策目標 2 学習を通じて人と人とのつながり、交流の輪を広げます

【総合評価】 B

## 【施策目標2の目標達成に向けた施策の展開方針】

### 【図書館】

- ・図書館では読み聞かせボランティアの育成に力を注いでおり、ボランティアの養成講座を行っています。活動の場としてのボランティアによるおはなし会の実施や、個々に活動しがちなボランティア団体同士の情報交換の場を提供するなど、学び、交流の場を質・量の両面で広げていきます。

### 【学習センター】

- ・文化創造拠点シリウスや市民交流拠点ポラリスなど、多くの市民が来館する施設に置いているチラシやポスターへ2次元バーコードを積極的に取り入れるなど、学習センターや市の主催事業のほか、各種の学習団体が自主的に行う事業へのアクセシビリティの向上を検討します。
- ・令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、5館のうち2館で学習センターまつりを中止しましたが、今後も事業が継続的に行われ、参加団体数が減少することの無いよう、引き続き各学習センターによる実行委員会等に対するフォローや、中止となった場合の代替事業の企画などの支援を行います。
- ・学習センター活動団体間の交流を促進する方策として、5館連携した「学習センターまつり参加団体による出張講座」のような、普段の活動拠点と異なる地域（学習センター）に行き、自主事業を行うことや、普段活動していない学習センターのまつりに参加することで、他団体との交流を活発にし、それぞれの地域課題の共有や、新たなつながりを生み出すなどの、地域間連携の支援を検討します。
- ・多くの市民が来館する複合施設のメリットを生かし、多くの市民が学習機会に触れ、人と人との交流を活性化できるような支援や、既存の団体やサークルが継続的に学習活動を行えるような体制づくりを支援し、地域での学び合いを支える担い手の育成に努めていきます。
- ・北部文化・スポーツ・子育てセンター（市民交流拠点ポラリス）のアリーナは、平日や休日にはスポーツ団体やサークルの利用、個人のスポーツ利用の希望も多くあり、主催講座を実施することができませんでした。スポーツに関する講座はアリーナだけでなく、地区館の多目的室などを含めた会場においても新たなスポーツを知るきっかけや、地域コミュニティの活性化にも活用できると考えられることから、共に学ぶ仲間づくりを支援できるような事業の企画を検討します。

### 施策目標3 学習のための環境や仕組みの充実を図ります

施策目標1・2を達成するためには、学習のための環境づくりや仕組みづくりが欠かせません。そのためには、施設の適切な維持管理や機能の充実、生涯学習を支援・推進する体制の充実、関係機関との連携推進を図る必要があります。

#### 個別目標3－(1) 学習施設の適切な維持管理・機能の充実

- ・生涯学習を推進するためには、安全で快適な学習環境の提供とともに、それを維持していくことが大切です。
- ・市民の学習ニーズの多様化にも、対応していけるような施設の維持及び更新が必要です。

##### 【めざす姿】

市民が快適な環境で学習している。

##### 【施策の内容】

- ① 学習施設の適切な維持管理、機能の充実を図ります。
  - ・安全で快適な学習環境を提供するため、学習施設の適切な維持管理を行うとともに、様々なニーズに対応するための機能の充実を図ります。
  - ・学習センター全館を指定管理者による管理運営とし、民間のノウハウを活用した学習機会の提供や効率的な管理運営を図ります。

### 個別目標3－(1)を達成するための主な取組

#### 1 学習環境の向上に関する取組(市長部局所管 担当:図書・学び交流課)

【関連する施策の内容】①学習施設の適切な維持管理、機能の充実を図ります。

- ・市民交流拠点ポラリスは、土日や学生のテスト前など、利用者から席が不足しているなどの要望が多数あったことから、令和2年度に多目的室(Room7)を学習室として整備し、次年度に開放しました。
- ・利用者懇談会においては、社会教育関係団体等から利用方法について出された意見を踏まえ、適宜サービスの見直しを行い、学習環境の向上に努めました。



生涯学習センター内  
市民交流スペース



市民交流拠点ポラリス  
Room6 & Room7 (学習室)

## 活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○利用者懇談会の実施回数	回	5	※1 2	4				10

※1 2019年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、学習センター3館で各1回中止となった。

## 成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○アンケートによる利用者の満足度	%	—	81	83				80

## 今後の課題

- ・文化創造拠点シリウスは市の代表的な複合施設として、幼児から大人まで大変多くの利用者が訪れています。利用者懇談会で出された利用登録団体からの意見から、利用者の視点に立ったサービスを検討することはもちろん、登録団体以外の利用者の意見も含めて、安全面が向上されるよう維持管理の見直しを行う必要があります。
- ・各学習センターにおいて来館者アンケートを実施し、施設の維持管理や機能面について、目標とする約8割の利用者から満足いただいています。引き続き指定管理者の管理運営ノウハウを活用しながら、利用者の様々なニーズにこたえ、学習環境の改善に努めていく必要があります。

個別目標3—(1) 学習施設の適切な維持管理・機能の充実

[達成度] A

### 個別目標3—(2) 支援・推進体制の充実

- ・学習活動の充実を図る上で、行政各部門の専門性を活用することも、有効な手段となります。
- ・また、行政の施策等を効果的かつ効率的に進めていくには、有識者の意見等を参考にしながら、有効な方策等を検討することも必要です。

#### 【めざす姿】

行政の知識や経験が市民の学習活動に活かされているとともに、生涯学習を進めていく方策が検討されている。

#### 【施策の内容】

- ① 行政の専門性を活用して、市民の学習活動を支援します。
  - ・行政の専門知識を市民の学習の場で活用し、市民の学習活動を支援します。
  - ・より効果的かつ効率的な学習支援を図るため、行政各部門と緊密に連携するとともに市民への幅広い情報提供を行います。
- ②学識経験者とともに学習活動を推進する方策の検討を行います。
  - ・学識経験者が参画する学びに関する各種会議を開催し、生涯学習推進に向けた方策の検討等を行います。
  - ・各種会議の審議等を通じて、行政の施策等を適正かつ効率的に実施します。

## 個別目標3—(2)を達成するための主な取組

### 1 どこでも講座の開催(市長部局所管 担当:図書・学び交流課)

【関連する施策の内容】①行政の専門性を活用して、市民の学習活動を支援します。

- ・開かれた市政の推進及び市民の市制運営への意識を醸成し、生涯学習によるまちづくりの振興を推進するため、市民の自主学習の場に職員を講師として派遣する、生涯学習出前講座「どこでも講座」を実施しており、毎年事業数は増減しながらも、提案事業数は引き続き88事業を維持しています。
- ・令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、各団体による自主学習の研修会などが延期・中止となり、参加者数は少なくなりました。

### 活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○「どこでも講座」の 開催事業数	事業	88	88	88			88	

## 成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○「どこでも講座」の延べ参加者数	人	452	310	58				630

## 今後の課題

- ・どこでも講座のメニューを増やすことも魅力的な講座の運営には必要ですが、メニューを充実させるための取り組みや、受講者を増やすための周知方法についても、現状のツール（チラシ作成やHP）以外の方法などを検討していく必要があります。

## 2 審議会等の運営(市長部局所管 担当:スポーツ課) (教育委員会所管 担当:図書・学び交流課)

【関連する施策の内容】②学識経験者とともに学習活動を推進する方策の検討を行います。

- ・スポーツ推進審議会、社会教育委員会議のいずれも新型コロナウイルス感染症の感染対策のため、書面会議などにより会議を行いました。
- ・社会教育委員会議主催の家庭教育支援事業においては、外部の講師を招き、コロナ禍における各家庭での悩みなどを共有するグループワークを含む、家庭教育支援の講座を企画しましたが、感染症対策のため令和2年度は事業を中止しました。

## 活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
◇審議会等の開催回数(スポーツ推進審議会)	回	3	※1 2	3				5
○審議会等の開催回数(社会教育委員会議)	回	4	※2 4	4				4

※1 スポーツ推進審議会は第3回審議会を新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止しました。

※2 社会教育委員会議は臨時会を1回開催しました。また、第4回定例会を新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止しました。

## 成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
◇スポーツ推進審議会審議案件数	件	6	2	8				6
○社会教育委員会議審議案件数	件	8	6	5				8

担当:○図書・学び交流課、◇スポーツ課

## 今後の課題

- ・社会教育委員会が主催する家庭教育支援事業については、講師が地域に自ら赴いて行うアウトリーチ型の事業であり、受講者が学習センターに来て行われる家庭教育学級とのすみ分けを行っています。
- ・本講座の受講をきっかけとして、家族内のコミュニケーションの活性化や、市民同士のさらなる交流推進が図られるよう、受講者自らが地域で子どもと一緒に楽しめる企画や、事業を地域に浸透させるための仕掛けづくりなどを、継続的に検討していく必要があります。

個別目標3—(2)支援・推進体制の充実

[達成度] B

### 個別目標3—(3) 関係機関との連携推進

- ・市民の学びの裾野を広げていくなかでは、学びに関わりのある様々な組織や個人の協力を得ながら取り組んでいくことが必要です。

#### 【めざす姿】

多くの組織や個人が行政と連携して、市民の学習活動に貢献している。

#### 【施策の内容】

- ① 学校や市民の学習団体、民間教育機関、個人ボランティアなどとの連携を図ります。
  - ・学校との連携を図りながら、学校施設を地域の「学びの場」として開放します。
  - ・民間教育機関、市民の学習団体や個人ボランティアなどとの連携により、その教育力を生涯学習推進施策に活用します。
- ② 地域の各種団体等との連携を図るとともに、活動を支援します。
  - ・地域で活躍する各種団体や機関と連携し、学習のための環境づくりを進めるとともに、地域コミュニティの形成や活性化を図るため、団体等の活動を支援します。
  - ・地域スポーツを支えるスポーツ指導者の育成やスポーツ環境を充実させ、地域スポーツの振興と安全なスポーツ活動を推進します。

## 個別目標3-(3)を達成するための主な取組

### 1 地域ボランティア・団体との連携(市長部局所管 担当:図書・学び交流課)

#### (教育委員会所管 担当:こども・青少年課)

【関連する施策の内容】①学校や市民の学習団体、民間教育機関、個人ボランティアなどとの連携を図ります。  
②地域の各種団体等との連携を図るとともに、活動を支援します。

- ・令和2年度のボランティア講師の利用件数については、昨年よりさらに少ない件数となりました。これは新型コロナウイルス感染症拡大防止の影響もあり、開催時期の検討(延期)を依頼したことも影響しています。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、青少年指導員連絡協議会をはじめとする青少年育成団体の取り組みや、イベントが中止となりましたが、各団体が広報誌を発行し、活動内容を周知するなど、実施可能な活動を工夫して行いました。

### 活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○ボランティア講師登録数	人	171	159	126				153
●青少年指導員の委嘱人数 ※1	人	106	107	96				120

※1 地方公務員法及び地方自治法の改正により、特別職非常勤職員であった青少年指導員が、令和2年度からは教育行政協力員とされたため、現在は委嘱ではなく、依頼を行っています。

### 成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○ボランティア講師利用件数	件	22	6	1				25
●青少年指導員の活動延べ日数	日	430	430	86				450

担当:○図書・学び交流課、●こども・青少年課

### 今後の課題

- ・ボランティア講師も学習センターで活動する団体やサークルと同様に高齢化が進んでおり、講師を辞退する人も多くなってきています。地域人材の掘り起こしのため、さらなる広報・周知活動や、文化・芸術のスキルはあっても人に教えることが苦手な人に向けたボランティア講師養成講座などの方法を検討する必要があります。

## 2 学校開放事業の実施(教育委員会所管 担当:図書・学び交流課・スポーツ課)

【関連する施策の内容】①学校や市民の学習団体、民間教育機関、個人ボランティアなどとの連携を図ります。

- ・コロナ禍においても利用者数を減らしたり、換気の頻度を多くするなどの感染対策を取った上で、各団体で工夫し、身近な生涯学習の場として市内の小・中学校の特別教室の利用がありました。施設数は市内のバランスもあり9施設となっています。調理室や工作室、陶芸窯のある部屋など、学校ごとに開放している教室や設備が異なり、様々な団体に利用いただいています。
- ・学校施設のスポーツ開放では、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、スポーツ開放中止期間があったため減少していますが、学校施設を拠点として、市民が参加しやすい環境が提供できており、各地域スポーツ及びレクリエーション活動が活発に行われました。

### 活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○特別教室開放施設数	施設	9	9	9				9
◇学校施設のスポーツ開放利用団体数	団体	456	430	414				476

### 成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○特別教室開放利用者数 ※1	人	16,094	16,038	2,286				17,766
◇学校施設のスポーツ開放利用件数 ※2	件	14,350	13,279	7,205				15,082

担当:○図書・学び交流課、◇スポーツ課

※1 特別教室開放については、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため2020年4月から8月、2021年1月9日から3月21日まで中止しました。

※2 学校施設のスポーツ開放については、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため2020年3月2日から7月14日、2021年1月9日から3月21日まで中止しました。

### 今後の課題

- ・特別教室開放事業においては、学校教育を優先し、児童生徒の感染対策を徹底した上での利用再開とされました。利用者の活動はまだ完全に戻ってはいませんが、今後、つきみ野学習センターが大規模改修で長期休館となることから、その代替施設として活用いただくよう、広く周知していくことが求められます。
- ・学校施設のスポーツ開放では、校庭や体育館などの施設利用率が高くなっているため、施設ごとの稼働率を考慮した利用方法等の検討を行っていく必要があります。

個別目標3—(3)関係機関との連携推進

[達成度] C

### 【施策目標3に対する評価】

- ・文化創造拠点シリウスを中心として、各学習センターや図書館の環境整備を推進し、快適な学習環境となるように努めた結果、学習環境の来館者アンケートにおいて83%の方から満足いただくことができました。
- ・市の社会教育について、家庭教育支援事業を中心に学識経験者や学校教育、社会教育などに携わる方々が協議する社会教育委員会議で家庭教育支援の進め方について、地域団体との連携方法や学校との連携等を継続して協議しています。

施策目標 3 学習のための環境や仕組みの充実を図ります	【総合評価】 B
-----------------------------	----------

### 【施策目標3の目標達成に向けた施策の展開方針】

#### 【学習環境の整備】

- ・利用者懇談会での意見や来館者アンケートなどをもとに改善した内容を、館内に取組み状況として掲示するなど、利用者や来館者への周知方法を検討します。

#### 【特別教室開放事業・スポーツ施設開放事業】

- ・地域における生涯学習の場として、学校の特別教室等を開放していますが、学習センターに比べ、利用率や開放校の認知度は、まだ少ないものと捉えています。近隣の学校を生涯学習活動に活用できるよう、学習センター利用団体に対するPRの方法を検討します。
- ・各学校開放校の利用実態を確認すると、学校毎に開放状況が異なっていることから、開放状況について実態を把握するとともに、さらに多くの人が利用できるよう、特別教室開放推進委員会等で検討を行い、利用しやすい環境を整えます。

#### 【地域の各種団体等との連携】

- ・子どもが様々な体験活動を通して学ぶための環境や仕組みを充実させるためには、青少年指導員をはじめとする地域の各種団体や機関が協力していくことが不可欠であり、相互に連携を図っていくよう支援していきます。





— 事務担当 —

教育部 教育総務課 政策調整係

Tel 046 (260) 5203 (直通)

文化スポーツ部 図書・学び交流課 学び交流係

Tel 046 (259) 6104 (直通)